

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果について

岩国市教育委員会

1 調査の目的

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日 令和8年4月23日(木)

(3) 調査を実施した学校・児童生徒数

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	岩国市立小学校 27校	870人
中学校第3学年	岩国市立中学校 13校	897人

(4) 調査の内容

①教科に関する調査

【小学校：国語13問、算数16問】

【中学校：国語15問、数学16問】

2 結果の概要

(1) 教科に関する結果

①平均正答率等

○ 小学校(6年生)

	国語【平均正答率(%)】	算数【平均正答率(%)】
岩国市	61.0	54.0
全国	60.9	56.4
山口県	62.0	57.0

○ 中学校(3年生)

	国語【平均正答率(%)】	数学【平均正答率(%)】	英語(IRTスコア)
岩国市	63.0	54.0	488
全国	63.9	57.0	499
山口県	64.0	57.0	495

②全体の結果

- 全国平均との比較（平均正答率）

【小学校】国語は同程度、算数は下回っている。

【中学校】国語、数学、英語すべて下回っている。

③教科ごとの結果

ア 小学校 国語

【相当数の児童ができている点】

- 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること
- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと

【課題のある点】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること

イ 小学校 算数

【相当数の児童ができている点】

- 小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくること
- 単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えること

【課題のある点】

- 示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めること
- 体積の意味について理解すること

ウ 中学校 国語

【相当数の生徒ができている点】

- 表現の効果を考えて描写すること
- 助動詞の働きについて理解すること

【課題のある点】

- 目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈すること
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること

エ 中学校 数学

【相当数の生徒ができている点】

- 同類項の意味を理解すること
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること

【課題のある点】

- 筋道を立てて考え、証明すること
- 2直線が平行になるための条件について理解すること

オ 中学校 英語

【相当数の生徒ができている点】

- 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用すること
- 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ること

【課題のある点】

- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと
- 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ること

(2) 生活習慣や学習環境等に関する結果

①児童生徒に対する調査

【望ましい状況】

ア 子どもたちの生活習慣

- 「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る・起きる」という規則正しい生活を送っている児童生徒の割合は高い。この結果に比例し、規則正しい生活を送っている児童生徒の教科に関する調査問題の正答率も高くなっている。

イ 子どもたちの意識

- 「自分にはよいところがあると思う」「先生は、よいところを認めてくれている」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童生徒の割合が高く、教師の学習面、生活面に対する適切な接し方により自己肯定感の高まりがみられると考えられる。
- 「いじめはどんな理由があってもいけない」「人が困っているときに進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童の割合も高く、規範意識が身に付いているともいえる。

ウ 学習

- 「先生は分かるまで教えてくれる」「国語や算数・数学の授業内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合が高く、授業で主体的に考えたり、自己の学びを調整したりしようとしている姿勢が身に付いてきているといえる。
- 「国語や算数・数学、英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」と回答した児童生徒の割合が、全国平均、県平均を上回っている。

エ 地域との関わり

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合が高く、地域への愛着が育っている。

【課題とみられる状況】

ア 家庭での学習習慣

- 家庭学習時間について「平日1時間以上勉強する」と回答した児童生徒の割合が全国平均、県平均を下回っている。

イ 学習

- 「ICT でプレゼン資料を作成できる」「ICT で情報整理できる」と回答した児童生徒の割合が、全国平均、県平均を下回っている。

ウ 社会的事象への関心

- 「新聞をほとんど読まない、または全く読まない」と回答した児童生徒の割合が高い。

エ 地域との関わり

- 中学校では「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思う」と回答した生徒の割合が、全国平均、県平均を下回っている。

②学校に対する調査

【望ましい状況】

ア 学習指導

- 小学校では、「児童一人一人に応じて学習課題や活動を工夫した」「算数でつまづいた児童への対応を行った」、中学校では、「総合的な学習の時間で探求の過程を意識した指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を上回っている。

イ 小中一貫教育

- 中学校区で教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行っている割合は全国平均、県平均と比べてとても高い。

ウ 家庭や地域との連携

- 「コミュニティ・スクール等を活用し児童生徒が意見表明できる取組を行った」と回答した学校の割合が、全国平均を大きく上回っている。

【課題とみられる状況】

ア 学習指導

- 中学校において「授業における ICT 活用頻度」について課題がみられた。

3 今後の取組

(1) 年2回の検証改善サイクルの確立

①結果の把握と分析に基づいた指導の工夫改善

ア 成果からみたよい取組の価値付け

イ 誤答分析による児童生徒の思考の分析と指導方法の改善

②全学年、全教科等を対象とした課題改善に向けた計画的な取組

ア 学力向上プランへの反映

イ 学校全体での取組の焦点化

ウ 個に応じた学習指導の改善・充実等

エ 理解度に応じた学び直しの時間の設定

(2) 授業改善

①校内研修、一人一授業公開の実施

- ア 「岩国市授業スタンダード」に則った授業の実施
- イ 「引き出したい振り返り」から考える授業づくり
- ウ 1人1台端末の積極的な活用
- エ 自分の考えを、根拠をもって伝える力を育成する場の設定

②学力向上担当・研修主任会における成果と課題の共有

- ア 各学校における全校体制での取組、課題、方策の共有
- イ 授業づくりやICT活用の好事例の紹介 (Teams 等)

③若手教員に向けた自主研修会の開催

- ア 若手教員のニーズに応じた研修会の実施
- イ Teams 等を活用した情報交換

(3) 地域との連携した取組の推進

①小中一貫教育の更なる推進

- ア 中学校区でのめざす子供像、学校課題等の共有
- イ 合同授業研究会、合同研修会の実施
- ウ 「子供」を主語にした交流活動等の実践

②学校・地域・家庭の更なる連携

- ア 「学校地域連携カリキュラム」の更新
- イ 児童生徒参画型の「学力に関する熟議」の充実
- ウ 持続可能な取組の模索